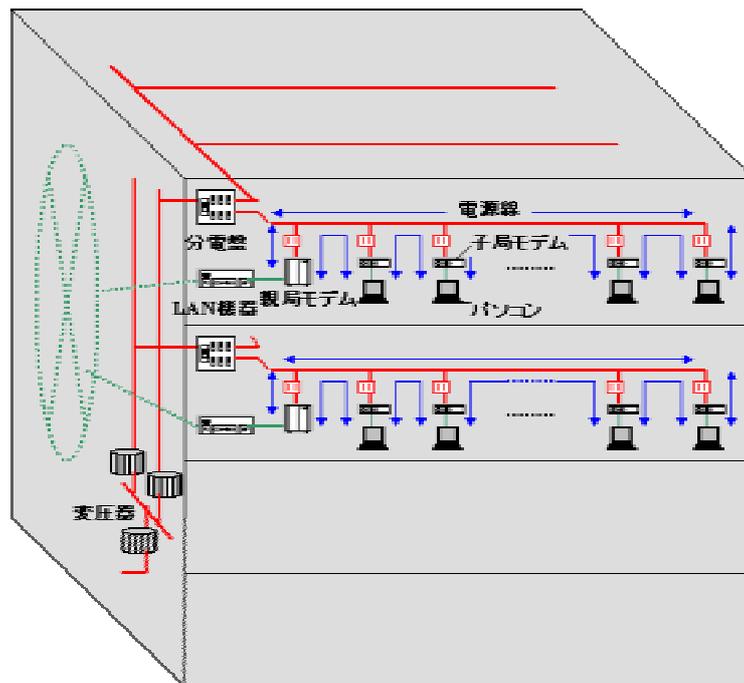


オフィスでの利用を想定した高速PLCの実証試験の概要について

1. 設置者名：東京電力株式会社
2. 設置場所：東京電力株式会社本店本館ビル
(東京都千代田区内幸町1 - 1 - 3)
3. 試験期間：平成18年2月7日～平成18年3月31日
4. 試験周波数帯：2MHz～30MHz
5. 主な試験項目：
 - ・ 執務フロアや会議室など、オフィスビルにおける様々な配線形態や使用形態を想定した漏えい電界低減技術の検証。
 - ・ 複数のモデムを設置した場合の漏えい電界の特性や、漏えい電界が隣接フロアへ及ぼす影響などの評価。
6. 実証試験イメージ：



←→ : 通信信号の流れ

7. 実証試験の特長

-) 総務省の研究会が取りまとめた共存条件に準拠したモデムを使用（実用化に向け一步進んだ実証試験を実施）

総務省の「高速電力線搬送通信に関する研究会」が、平成17年12月に取りまとめた高速PLCと既存の無線利用との共存条件に準拠するモデムを、国内で初めて使用して高速PLCの漏えい電界低減技術の実証試験を行います。

-) オフィスでの利用を想定した実証試験

当社本店本館ビル内で、オフィスにおける様々な使用形態を想定し、高速PLCの漏えい電界低減技術の実証試験を行います。

<今回使用するモデム>

AC/DCアダプター体型モデム

パソコンとネットワークを接続するLANケーブルを省くことができ、オフィス内配線の簡素化やレイアウト変更時の工事が不要となるなどの効果が期待できます。



スイッチングハブ体型モデム

スイッチングハブ^()とネットワークを接続するLANケーブルを省くことができ、オフィス内配線の簡素化やレイアウト変更時の工事が不要となるなどの効果が期待できます。



() スwitchingハブ

ネットワークの中継機器であるハブの一種。通常のハブは、ある端末から送られてきたデータを全ての端末に送信し、データの取捨選択は各端末が行うのに対し、スイッチングハブは端末から送られてきたデータの宛先を検出し、送り先の端末にしかデータを送信しない。

単機能モデム

通信信号を電力線通信用の信号に変換し、電力線へ送出します。複数台設置して、特性評価などを行います。



以上